



あなたの高血圧症の薬、ジェネリックでもっとおトクに

監修 ■ 医薬情報研究所 株式会社エス・アイ・シー 薬剤師 堀美智子



下表は高血圧症で処方される薬の一例ですが、「新薬（先発医薬品）」を「ジェネリック医薬品（後発医薬品）」に切り替えると、薬剤費がかなりおトクになることがわかります。

ジェネリック医薬品が安いのは、新薬の特許が切れたあとに同じ有効成分を使って作られており、開発コストが低く抑えられるため。添加物や製造工程が新薬と異なる場合がありますが、薬の吸収や排泄などが同等であることを国が審査・確認しており、今では多くの薬局でジェネリック医薬品が推奨されています。

それでも心配な人には、まず短期間だけジェネリック医薬品を使ってみる「おためし調剤」（分割調剤）もあります。その後問題がなければ残りもジェネリック医薬品を調剤してもらおう、あるいは不安があれば元の薬に戻すといったことができるため、薬局で相談してみるとよいでしょう。

● Ca拮抗薬：血管を拡張させる薬（5mg錠を1日1回、1年間服用した場合）

	薬価×日数	自己負担額
新薬	1日分 40円×365日 = 14,600円	4,380円
ジェネリック	1日分 20円×365日 = 7,300円	2,190円

2,190円おトク!

● ARB：血圧を上げる物質の働きを抑える薬（20mg錠を1日1回、1年間服用した場合）

	薬価×日数	自己負担額
新薬	1日分 100円×365日 = 36,500円	10,950円
ジェネリック	1日分 30円×365日 = 10,950円	3,290円

7,660円おトク!

● ACE阻害薬：血圧を上げる物質の働きを抑える薬（5mg錠を1日1回、1年間服用した場合）

	薬価×日数	自己負担額
新薬	1日分 50円×365日 = 18,250円	5,480円
ジェネリック	1日分 20円×365日 = 7,300円	2,190円

3,290円おトク!

※上記の薬価（薬代）は2020年7月30日現在のものです。また、薬価のみを計算したもので、実際に支払う医療費には、別途、調剤基本料や薬剤服用歴管理指導料、薬剤情報提供料などが含まれます。
 ※用量、薬価等は一例であり、薬剤やメーカーによって価格は異なります。なお、薬価は点数に「五捨五超入」という特別の計算ルールがあります。自己負担分は四捨五入され10円単位での支払いとなり、上記は3割負担の場合です。

新薬より改良されたジェネリック医薬品も



ジェネリック医薬品の中には、新薬よりも服用しやすい工夫がされているものがあることはご存じですか？
 例えば、錠剤のサイズや形状を変更したり、味や匂いを改良するなどしてのみやすくして

いるものがあります。また、少量の水や唾液ですばやく溶けるようにした錠剤（湿性錠）なども作られています。

該当する新薬に関する市場調査を行って患者さんの声を取り入れ、新薬の開発時にはなかった製造技術などを用いて、より安心・安全・快適に使えるようにしているのです。